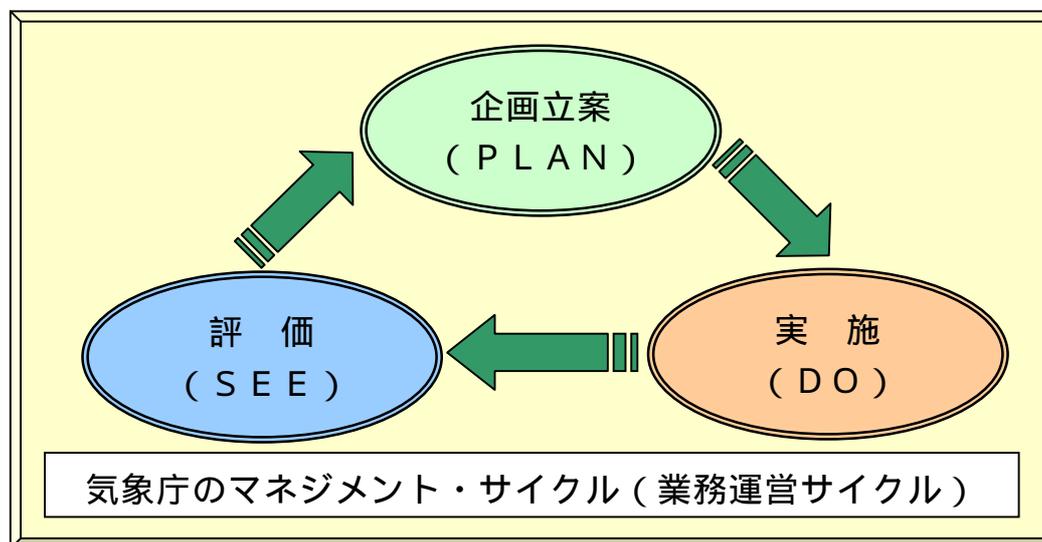


第 1 章 気象庁の業務評価

気象庁では、業務評価活動を通じて気象業務の遂行・改善に取り組んでいます。業務評価の実施状況、業績測定結果等を一覧的に分かりやすく示すことを目的に、今般「気象庁業務評価レポート（平成 16 年度版）」を取りまとめました。

1 業務評価の基本的な考え方

業務評価は、気象庁が実施する業務について、適時に、その効果を把握し、これを基礎として、必要性、効率性、有効性の観点その他当該業務の特性に応じた観点から、自ら評価を行うことにより、業務の企画立案や施策を的確に実施するための重要な情報を提供するものです。業務評価は、「企画立案（Plan）」、「実施（Do）」、「評価（See）」というマネジメント・サイクルの中にシステムとして明確に組み込み、その客観的かつ厳格な実施を確保します。また、業務の不断の見直しや改善につなげるとともに、業務評価に関する一連の情報を公表することにより、国民に対する行政の説明責任の徹底を図るものです。



業務評価がマネジメント・サイクルに取り込まれ、このサイクルが有効に機能することにより、業務の質の向上が図られ、併せて企画立案能力の向上や職員の意識改革が進みます。これらにより、国民本位の効率的で質の高い行政や国民的視点に立った成果重視の業務が実現されることとなります。

2 業務評価の目的

気象庁の業務評価導入の契機となった政策評価は、効果的かつ効率的な行政の推進、国民の視点に立った成果重視の行政の実現、国民に対する説明責任の徹底を目指しています。

加えて、気象行政は主として気象等の観測や各種気象情報の作成・提供といった気象業務の実施を担っており、毎日の的確な業務遂行が重要となります。

これらを踏まえ、気象庁の業務評価は次の 4 つを目的として実施しています。

気象庁の業務評価の目的

- 国民本位の効率的で質の高い行政の実現
- 国民的視点に立った成果重視の行政の実現
- 国民に対する説明責任の徹底
- 仕事の進め方の改善、職員の意識の向上